

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-47	高等学校	家庭	生活産業情報	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	家庭 704	生活産業情報		

1. 編修の基本方針

教育基本法第二条の各号の目標を達成するため、それぞれ以下の点を基本方針とし本書を編修した。

教育基本法第二条	方 針
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識と技能の習得のために、基礎的教材と例題により構成した。 ・本文中の重要語句は太字とし、側注に用語説明などを入れるなどし、基礎的な知識の定着を図った。 ・情報を利用する際のモラルやマナーについて理解し、相手への配慮や社会に対する責任についてどのように意識して行動すればよいかを考えることで、豊かな情操や道徳心を培うことができるよう配慮した。
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・情報化の進展が生活産業にどのように利用されているのかを理解するために、巻頭の口絵に具体的な利用例を掲載した。 ・また、今後社会が発展すると考えられる方向性を示すことで、どのような分野の職業を選択するのかを考えることができるように配慮した。
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルの学習を通じて情報社会のルールを理解することで、公共の精神を養うことができるようにした。 ・多様な価値観を認めあうことができるよう、男女の固定的な役割を前提としない多様なイラストで展開するよう配慮した。 ・情報の伝え方を工夫することで、社会における格差を緩和・解消しうると理解することで、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与しようとする態度が身に付くようにした。 ・情報に関する法律や制度などを盛り込み、法律の意味や背景などを理解することで、次代の発展に寄与できるような態度を身に付けられるようにした。
第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・情報産業の進展が省エネルギー社会の実現にもつながることを理解することで、自然を大切にし、環境保全に寄与する態度につながるよう配慮した。
第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・5章および6章のアプリケーションソフトを利用した例において、郷土料理や浴衣について取り上げ、現代に引き継がれている日本の伝統や文化に対する理解が深められるよう配慮した。

2. 対照表

●全体的な特色		
図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
巻頭口絵	・情報モラルや生活産業に関わる内容，さらに実際にアプリケーションを使用した作例などについては，カラー写真などによる図解を掲載することで創造性を培い，学習に向かう意欲を喚起させ，意欲的に学習に取り組むことができるようにした（第2号）。	巻頭①～⑦
1～4章の座学編	・情報技術の発展による今後の社会に対する影響や，情報モラルに関わる内容については，図解を豊富に掲載し，実社会との関連をはかりながら理解できるよう配慮した（第1号）。	1～4章全般
Column	・幅広い知識と教養を身に付けるために（第1号），本文で学んだ内容の具体的な事例や，関連した発展的な内容を扱った。	p. 10, p. 64など
側注	・見開きの左右小口側に側注を設け，用語の解説や参照ページなどを付し，より深い理解や相互の関連性に気付けるように配慮した（第1号）。	p. 4, 6など全般
本文中のゴシック体	・学習上で重要な用語についてはゴシック体を使うことによって強調し，あわせて丁寧な説明を記述することで，幅広い知識と教養の定着に資するようにした（第1号）。	p. 5, 6など全般
5～6章の実技編	・アプリケーションソフトの利用においては，例題を通して技術を習得できるよう配慮した。練習問題を掲載することにより，個人に応じた学習や家庭学習にも柔軟に対応できるよう配慮した（第2号）。 ・例題のテーマとして郷土料理や浴衣について取り上げ，現代に引き継がれている日本の伝統や文化に対する理解が深められるよう配慮した（第5号）。	5章全般 6章全般
学習のねらい	・5章の例題には，学習のねらいを付して，どのような技能が必要かが分かるようにした（第1号）。	p. 68, 70など
巻末口絵	・中学までの学習を踏まえ，文字入力が確実に操作できるように配慮した（第1章）。	巻末⑧～⑩

●章ごとの特色		
図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1章 情報化の進展と生活産業	・情報化の進展が現在または将来どのような方向に向かう可能性があるのかを理解し（第1号），それが自分たちの生活や職業（産業）にどのような影響を及ぼすのかについて理解することで，勤労を重んずる態度を養うことができる（第2号）ように配慮した。 ・情報産業の進展が省エネルギー社会の実現にもつながることを理解することで，自然を大切にし，環境保全に寄与する態度につながるよう配慮した（第4号）。	p. 4～10, 12～15 p. 6, 9
第2章 情報モラルとセキュリティ	・情報社会におけるモラルについて理解することで，道徳心を培うことに繋がるよう配慮した（第1号）。 ・個人情報保護や知的財産権保護の重要性を理解し，それにふさわしい行動をすることが，公共の精神に基づいて主体的社会の形成に寄	p. 16～18 p. 18～26

	<p>与する態度となるよう配慮した（第3号）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報社会における犯罪について理解し（第1号），これらを防ぐための制度や技術に触れつつ，個人でできる対策についても理解し実践することができるようになることで，公共の精神に基づいて主体的社会の形成に寄与する態度となるよう配慮した（第3号）。 	p. 31～37
第3章 コンピュータとプログラミング	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの基本構成（ハードとソフトの役割）について理解できるように，図やイラストを多用した（第1号）。 ・コンピュータの利用例として，身近な事例を使ってモデル化とシミュレーションについての概要が理解できるようにした（第1号）。 	p. 40～44 p. 46～48
第4章 生活産業におけるコミュニケーションと情報デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を伝える各種メディアの特性と，コミュニケーション手段の発展について理解し，どのように利用されているか理解できるようにした（第1号）。 ・視覚に限らずより多くの人に情報が伝わる工夫が様々あることや，今後国際化が進展する中で，さらなる工夫が求められることも理解できるようにした（第1号）。 ・伝えるべき情報の示し方を工夫することでより多くの人に内容が伝わることを理解し，将来の職業に生かすことができるようにした（第2号）。 	p. 52～55 p. 55～57 p. 60～63
第5章 各種アプリケーションの基本操作	<ul style="list-style-type: none"> ・例題を示し，具体的な手順を操作画面とともに丁寧に展開することで理解できるように配慮した（第1号）。 ・例題や問題には身近なテーマを設定し，生徒がより主体的に取り組めるように配慮した（第2号）。 	p. 68～69など全般 p. 68, 70, 74, 76 など全般
第6章 生活産業に関連した情報デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・衣・食・住・ヒューマンサービスなどの各分野に関連したテーマを設定して，生徒が興味を持ちやすいように配慮した（第2号）。 ・テーマには郷土料理や浴衣を扱うことで，郷土を愛する態度が養われるように配慮した。 ・ヒューマンサービス分野で「心のバリアフリー」などを扱うことで，正義と責任，自他の敬愛と協力を重んじる態度を養い，社会の形成と発展に寄与する態度に結び付くよう配慮した（第3号）。 	全般 p. 148, 150 p. 154～155

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

学校教育法第五十一条の各目標を達成するため，以下の点に留意し，本書を編修した。

一 義務教育として行われる普通教育の成果をさらに発展拡充させて，豊かな人間性，創造性及び健やかな身体を養い，国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校での学習内容を踏まえつつ，基本的な技能（キー入力など）については改めて掲載し，知識の確実な定着を図り，実践的な学習につなげられるようにした。
二 社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき，個性に応じて将来の進路を決定させ，一般的な教養を高め，専門的な知識，技術及び技能を習得させること。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の将来や職業を考えることは「社会の一員」であることを自覚することでもある。ひいては社会の形成と発展にも寄与することとなる。そうした自分と社会とのつながりを自覚できるように配慮した。 ・現在の生活における課題に気づき，その課題解決のために情報技術をどう活用できるかを理解し，必要な技能を習得しようとする姿勢を身に付けられるようにした。
三 個性の確立に努めるとともに，社会について，広く深い理解と健全な批判力を養い，社会の発展に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活や将来について考えるとともに，社会状況などについて理解し，よりよい社会を創造していこうとする態度を養えるような内容とした。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-47	高等学校	家庭	生活産業情報	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	家庭 704	生活産業情報		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

●全体的な配慮と特色

- (1) おもに基礎的・基本的な知識の習得を中心として展開する前半(第1～4章)と、基礎的・基本的な技能の習得を中心として展開する後半(第5～6章)に大きく分けて構成した。
- (2) 情報化の進展についての記述は最新状況を踏まえ記述したが、普遍的な素材を選定するように努めた。
- (3) 本文の記述に対する具体例や、発展的な内容をColumnとして掲載することでメリハリをつけた。
- (4) 本文の用語解説などは側注として付したほか、英略字についても元の語を記すようにした。
- (5) アプリケーションソフトについては、それぞれ普及しているソフトウェア共通の基礎的・基本的な機能を中心に展開するように心がけた。
- (6) あわせて、特定のバージョンに依拠しないように心がけた。
- (7) アプリケーションの操作手順については、丁寧に手順を示すとともに、可能な限り操作画面を掲載した。
- (8) 例題を作成する中で、どのような機能があるのか、習得すべき技能は何かを理解できるようにした。
- (9) プログラミング言語の選定については、学校現場に広く普及している表計算ソフトの機能を用いることで、導入しやすくなるように配慮した。
- (10) キーボードによる日本語入力の手軽さが減っている現状を鑑み、キーボードの名称と機能および変換表を付した。いつでもすぐ開いて確認できるように、巻末に掲載することとした。

●具体的な配慮と特色

第1章 情報化の進展と生活産業

インターネットの普及が進み、今後 Society5.0 へ向かうとされる端境期にあるとともに、すでに移動通信手段であり広く普及している携帯電話回線もさらなる高速化が実現しつつある。そうしたことが自分たちの生活や職業にも大きな影響がある可能性があることを理解できるようにした。単に便利になるだけではなく、社会が抱える諸問題の解決(格差是正や環境問題など)にも寄与しうることに触れた。

第2章 情報モラルとセキュリティ

情報化の進展とともにこれまで以上に個人情報の保護が求められていることが理解できるように配慮した。身近な事例を扱うことで、自分が被害者になるばかりではなく、加害者にもなりうることも自覚できるようにした。また知的財産権保護がなぜ必要なのかを理解したうえで、それを保護する法律についても示した。あわせて情報関連の法律が様々あり、必要に応じて改正されていることも示した。

サイバー犯罪の事例も示し、被害にあう可能性について理解できるようにした。犯罪から守る技術があるとともに個人々々人が対応すべき事柄も示した。

第3章 コンピュータとプログラミング

コンピュータの基本構成を、ハードウェアとソフトウェアの両面から理解できるようにした。ソフトウェアの一つと

してプログラミング言語を扱った。様々な言語があり、それぞれの特徴を簡潔に示した。

モデル化とシミュレーションの概要を示し、その具体的な例を表計算ソフトを使って示すことで理解できるようにした。

第4章 生活産業におけるコミュニケーションと情報デザイン

各メディアはコミュニケーションの手段として利用されるが、それぞれの特性を理解できるように配慮した。コミュニケーション手段は、目的により使い分ける必要性があり、特にユニバーサルデザインの観点からの工夫が求められていることが理解できるように配慮した。また昨今ではグローバル化に対応するために、言語によらないデザインの工夫が続けられていることを、具体例を元に理解できるようにした。

第5章 各種アプリケーションの基本操作

実践的・体験的な学習活動を通じて情報及び情報技術の使い方を理解できるようにした。職業において使用する機会が多いアプリケーションソフトを各節ごとに扱った。各節の冒頭に起動画面を掲載し、そのソフトの概要とともに機能を説明することとした。

操作手順の展開については、具体的な完成例を例題で示し、どのような機能や操作を習得すべきかは学習のねらいとして明記した。一つひとつの手順を追って操作を解説することで、誰でも完成させることができるようにした。あわせて側注で関連した操作や用語の解説をすることで、何のためにその操作をするのか、別の操作をする際にはどうしたらよいか分かるようにした。例題の次には関連した問題を設定し、同様の操作で完成できるかが確認できるようにした。

プログラミングソフトについては、手順を追うだけではなく文法としての基本形を示し、それに沿って入力すべきコードを併記することで、理解できるように配慮した。

プレゼンテーションソフトについては、アプリケーションソフトの操作方法に限らず、プレゼンテーションそのものの方法や注意事項について示すことで、実際に発表する際の参考になるようにした。

Web ページ作成ソフトについては、全体の構造（トップページとサブページの関係など）が分かるように図示した。

第6章 生活産業に関連した情報デザイン

各分野に関連したテーマを設定する中で、生活に関わる文化についても関心が持てるように配慮した。

また、一つのアプリケーションソフトのみによる情報の発信ではなく、必要に応じて使い分けることができるように配慮した。

2. 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領 の内容	該当箇所	配当 時数
第1章 情報化の進展と生活産業	1 情報化の進展と社会	(1) ア	p. 4~11	3
	2 生活産業における情報化の進展	(1) イ	p. 12~15	
第2章 情報モラルとセキュリティ	1 情報モラルとマナー	(2) ア	p. 16~28	12
	2 情報通信ネットワークのしくみとセキュリティ管理	(2) イ	p. 29~39	
第3章 コンピュータとプログラミング	1 コンピュータの基本構成	(3) ア	p. 40~45	8
	2 モデル化とシミュレーション	(3) ア	p. 46~48	
	3 アルゴリズムとフローチャート	(3) イ	p. 49~51	
第4章 生活産業におけるコミュニケーションと情報デザイン	1 メディアの特性	(4) ア	p. 52	5
	2 コミュニケーション	(4) ア	p. 53~59	
	3 情報デザインの課題	(4) イ	p. 60~65	
第5章 各種アプリケーションの基本 操作	1 文書作成ソフトの利用	(4) ア, イ	p. 66~77	32
	2 表計算ソフトの利用	(4) ア, イ	p. 78~93	
	3 プログラミングソフトの利用	(4) ア, イ	p. 94~109	
	4 プレゼンテーションソフトの利用	(4) ア, イ	p. 110~119	
	5 画像処理ソフトの利用	(4) ア, イ	p. 120~127	
	6 動画に関連したアプリケーションの利用	(4) ア, イ	p. 128~137	
	7 Web ページ作成ソフトの利用	(4) ア, イ	p. 138~147	
第6章 生活産業に関連した情報デザ イン	1 食生活関連分野での利用	(4) ア, イ	p. 148~149	10
	2 衣生活関連分野での利用	(4) ア, イ	p. 150~151	
	3 住生活関連分野での利用	(4) ア, イ	p. 152~153	
	4 ヒューマンサービス関連分野での利用	(4) ア, イ	p. 154~155	
	5 消費生活関連分野での利用	(4) ア, イ	p. 156~157	
合 計				70

(備考) 配当時間については、履修単位を2単位として各章の授業時間数を示した。